

表紙の言葉———

混迷挫折から紆余曲折を経て、成長し自立して行く精神を表現しました。東京展の歴史とも重なります。同時に普遍的な人間の成長という意味も盛り込みました。

アートとは視覚的な形で人間性が表現結実されたものと考えます。アートによってさらに東京展が発展することを願っています。

運営委員・明輪勇作

過去を顧みて———

ここ2年間ほど、50周年記念プロジェクトのためにいろいろな方にインタビューしたり、過去の資料を漁ったり取り寄せたりして、〈東京展の意味〉を知るべく奔走した。それはとても楽しい旅であったが、同時に結局私に関わっていない70年代～90年代前半の約半分の様子はなかなか見えてこない、という霧に包まれた感を払拭出来なかった残念さも残る。

東京展は系統立って記録を残してこない組織であった。初回に関してはそれでも相当記録は残っている。それだけ世間を騒がした展覧会だったからだ。しかし2回展以降がとんと分からない。毎回見に来ていらしたであろう評論家の先生方でさえ、あまり記憶に残していないのだ。あくまで数多ある展覧会のワンオブゼムであるから、それは致し方ない。

それでも50年続いてきた歴史にはそれなりの意義と重みがあるだろう。それを検証し、称揚したい。そして私が知らない作家を詳らかに知って、この記念誌に掲載しなかったのも事実だし、漏れてしまった方々の思いを汲み取れなかった自分自身の非力も恨めしい。しかし今後これで終わり、ということではなしに、WEBを使って『東京展資料館』を作成していこうと思う。であるから、この記念誌はあくまで通過点であり、今後新しい事実が掘り起こされたらその資料館に加えていけばいい。この記念誌は私の偏見もあるし、間違いもあるだろう。それはご容赦いただきつつ、95%くらいの正確さ、ということでご理解いただいて、より正確でより深い情報は今後の研究と探求にその道を譲ろう。

『東京展の記憶』というセクションでは初回会報から6名の先達の寄稿文を転載した。

うまくデータ化できなかったので、いちいち文字起こしながらあらためてジックリ味わった。東京展の中では評価の低い針生一郎氏の文章は、アンデパンダン展の問題点を述べつつ、その処方箋が書いてあり、それは至極真っ当だと思われる。そんなに変なことは書いていないし未来への提言としても貴重である。岡本太郎氏は、相変わらずの〈岡本太郎節〉で感動を覚える。寺山修司氏の寄稿はさすが詩人であり、味わい深い。羽黒洞の木村東介氏はトンガった文章を書いている。井上長三郎氏は言うべきことは書いているが少し遠慮深い印象。そして中村正義氏の文章。実は最も難解であり、一つ一つの言葉が何を具体的に指しているのか不分明なところが散見される。であるが、個人的には最も胸を打たれる内容だ。— 物事に対して盲目的にならずに自分で判断する目と思考を持って —、と言っている。さらに— 自分さえ疑え、そして自己変革せよ — とも言っている。表層的な形にばかり目を向けるのではなく、あくまで根幹、そして自己を探求すること。私は〈東京展精神〉を常にそこに見出している。

東京展事務局長・田所一紘

追記

50周年を迎えた事務局メンバーは、それぞれ山積する仕事を必死にこなして下さる心強い方々です。会員・一般出品者向けに大量の書類を用紙してくれる財前みつこさん。毎回濃い話し合いとなる委員会を議事録としてまとめてくれる田代りえ子さん。HPや会報、新出品者受け、図録編集など過重労働を担って下さる明輪さん。本展の時、会員作品をていねいに撮影してくれる山下晃伸さんは、SNSでの広報活動やリモート会議もやってくれています。毎回の会場予約に懇親会の仕切りなどをやって下さる吉川潔さん。会計を細部まで取り仕切って下さる中川むつみさん。絵本の加賀美裕子さんはもう既に歴史的人物だと思います。もちろん皆さんそれ以上の仕事をやって下さっています。そして高い見地からジャッジメントし行動される運営委員長の高倉和郎さんは、見事に会の要となっています。皆さんに感謝申し上げます。そして50周年プロジェクトにご協力下さった委員及び関係者の皆様にも深く御礼申し上げます。



東京展美術協会 創立50周年記念誌

2024年10月8日発行

編集責任者 田所一紘

協力 表紙と挿絵 : 明輪勇作  
絵本の部屋 : 武藤順子 加賀美裕子  
デザイン : 野木村早苗

〈50周年プロジェクトチーム〉

青柳芳夫  
明輪勇作  
井上千鶴  
大島 進  
影山あつこ  
財前みつこ  
坂口雅彦  
高倉和郎  
田代りえ子  
塚原克孝  
中川むつみ  
林晶子  
平山延子  
福井昭雄  
山下晃伸  
吉川潔  
渡邊光彩

---

発行者 東京展美術協会  
〒238-0031  
神奈川県横須賀市衣笠栄町1-70 田所一紘方  
TEL : 090-8497-9574  
Mail : kinuken.aonosikou@gmail.com